

楽しく美しい まちづくり通信…⑤⑤

田舎をいそる里 下斗米

十一月中旬、高い山々から初雪のたよりが聞かれる頃、下斗米を訪ねました。紅葉も終わり、里では早くも冬支度、収穫の終わった田んぼには「はげ」（稲架）だけが残っていました。



藤孝一さん (72歳)
（下斗米字上台）

集落内に入ってまもなく館坂というバス停留所があり、右側の小高い場所が下斗米館跡になっています。館跡からは、広く集落を一望することができます。背後には、領主下斗米胤成が開基したと伝えられる聖福院があります。

このお寺は、昔、西側の寺久保と呼ばれる所にあったと伝えられています。この場所には、むかし、ある和尚さんが枝を持ち帰り、逆さに差しておいたものが成長したと伝えられる大イチョウがあります。地元では、

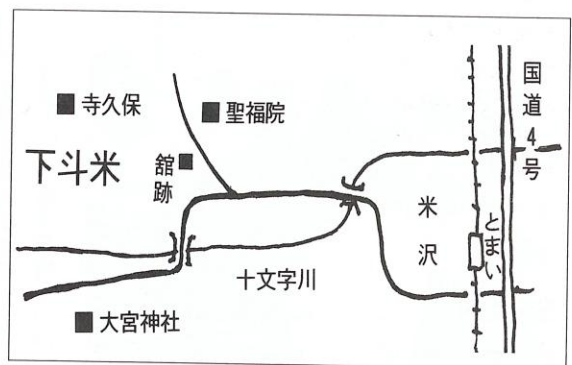
「逆さイチョウ」と呼び親しまれるこの大木は、幹周り七・五尺、樹齢五〇〇年以上と言われています。

大宮神社は、国道4号から十文字川沿いに、西へ約四キロ、下斗米の外れにあります。

この神社は、今から約六四〇年前の延文年間に、家の鎮守「大権現」を胤成が斯波（今の紫波郡）から下斗米の領主となって移り住むときに、遷座したのが始まりといわれます。社殿を取り囲むように、スギ、ブナ、イチョウ、ケヤキなど、三層を超える巨木が立ち並び、その数と種類も多く、なかでもスギの巨木が多いため、日中でも境内は薄暗く感じます。また、文武に優れ、特に医療には優れた腕前だったといわれる三哲（下斗米小太郎秀胤）塚が、夫婦杉の脇にひっそりと立っています。

社殿に入ると、両脇に獅子頭を守るかのように立つ、あ形とらん形の金剛力士像（仁王尊）がすぐ目につきます。また、祭神も十一面観音で、お寺と錯覚を起こしてしまいます。

案内してくれた、地元の佐藤孝一さんは、「下斗米には、



大宮神社

古い歴史があるんですよ。先輩の方々から聞いたことを基に少しでも調べて、後世に伝えていきたい」と白い息を吐きながら話してくれました。

祭日十月第一土曜日
大宮神社山伏神楽（市指定）

- 11日（木）
- 12日（金）
- 13日（土）
- 14日（日）
- 15日（月）
- 16日（火） 4力月児健康診査（市保健センター）
- 17日（水）
- 18日（木） 2歳児歯科健康診査（市保健センター）、法律相談（市役所市民相談室）
- 19日（金） 税務巡回相談（市保健センター）
- 20日（土）
- 21日（日）
- 22日（月） 冬至（二四節気）
- 23日（火） 天皇誕生日
- 24日（水） 1歳6力月児健康診査（市保健センター）
- 25日（木） クリスマス
- 26日（金）
- 27日（土）
- 28日（日）
- 29日（月）
- 30日（火）
- 31日（水） 大晦日

★12月★



12月11日～1月10日